

浜の活力再生プラン (第 2 期)

1 地域水産業再生委員会 ID: 1101010

組織名	佐呂間地域水産業再生委員会
代表者名	会長 阿部 與志輝

再生委員会の構成員	佐呂間漁業協同組合・佐呂間町
オブザーバー	北海道（オホーツク総合振興局）、北海道漁業協同組合連合会（北見支店）、佐呂間漁協生産部会

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	<p>地域：佐呂間町（佐呂間漁業協同組合の範囲）</p> <p>漁業：ホタテガイ養殖漁業 49 名、外海ホタテガイ桁網漁業 53 名、サケ定置網漁業 53 名</p> <p>その他兼業（マス小定置網漁業 10 名、カキ養殖漁業 41 名）他</p> <p>漁業者数：正組合員数 56 名</p>
-----------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>佐呂間地域水産業再生委員会が所管する佐呂間町は、北海道北東部に位置するサロマ湖の南岸に位置しております。</p> <p>佐呂間漁業協同組合の組合員は 56 名で北海道の中でも小規模な漁協ではありますが、ホタテガイ漁業、ホタテガイ養殖漁業、サケ定置網漁業が主要漁業として、マス小定置網漁業、カキ養殖漁業等が兼業で営まれており、平成 29 年度における生鮮魚介類・加工製品を含めて約 6,900 トン、金額は約 30 億円の販売取扱高となっており、地域の基幹産業として重要な役割を果たしております。</p> <p>「つくり育てる漁業」として昭和 40 年全国に先駆けてホタテガイ養殖漁業の企業化を実施し、オホーツク海においてはサロマ湖で採苗・育成したホタテガイ稚貝の計画的放流、サロマ湖においてはホタテガイ・カキを含めた養殖許容量を設定遵守し採苗から出荷まで資源管理を行っており、サケ・マス稚魚の海中飼育・管理・放流を継続実施して「つくり育てる漁業」を促進しております。</p> <p>しかしながら、近年比較的安定した漁業生産がされておりますが、ホタテガイ・サケの魚価は国内外の経済情勢等により大きく変動し、漁業所得に大きな影響があるため、魚価の価格安定・向上が課題となっており、漁業経費では燃油はもとより漁業資材の高騰により経費の増加が漁業</p>
--

経営を圧迫しており、経費の削減に向けた取組が必要となっております。

漁港がサロマ湖内の富武士漁港本港・分港なため、オホーツク海での操業時は、サロマ湖漁港より出入りする航行環境にあつて航路整備が未完成的な状況下で、サケ定置網漁業を中心に漁獲物の積載量に制限を余儀なくされている状態です。富武士漁港本港・分港では漁船の大型化により狭隘になってきており、物揚場浚渫による利用拡大や漁船上架施設の検討が必要となっております。また、更なる漁獲物の輸出促進に向け屋根付き岸壁の設置などの衛生管理を進めていくと共に、漁獲物の鮮度保持のため製氷施設建設検討が必要となっております。

富武士漁港のホタテガイ養殖作業については、既設の陸上養殖作業施設で作業しておりますが、養殖規模の拡大も相成つて狭隘となり併せて施設の老朽化も進行し作業効率も低下していることから、衛生管理も含めた施設整備が必要となっております。

漁協の運営によるホタテガイ乾貝柱製造工場においても、更なる付加価値向上や衛生管理の徹底と生産増量のため、より高性能・衛生管理の出来る貝柱保管庫・選別機の導入が必要となっております。また、ホタテガイ玉冷工場においても国内販売・対米輸出はもとより対EU輸出に向けてEU-HACCP認定工場への改修を行い付加価値向上と製造・販路拡大を図ることが必要となっております。

地域では漁業従事者・水産加工場従業員の労働力確保が課題となっており、ホタテガイ乾貝柱工場・玉冷工場においても外国人実習生に頼らざるを得ない状況となっており、従業員確保に向けた外海ホタテガイ漁業乗組員宿舎、外国人実習生宿舎の建設が必要となっております。

(2) その他の関連する現状等

漁業者の経営は協同組合運動理念を基に、昭和40年度より全組合員がそれぞれに生産高・経営経費を基本とした営漁計画書を作成し、年度末には計画に対する収支実績検討を實踐し、経営の健全性確保を図っており昭和48年からは青色申告簿記完全記帳も實踐しています。

海を守り育み、次代へ引き継ぐため木を植えて魚を増やす山林造成は、昭和36年から佐呂間漁業協同組合女性部員・青年部員が率先して植樹活動に参加しております。

水産物・魚介類消費流通を図る観点から、青年部員による小学校の「出前授業」を漁業士の協力を得ながら行い、地場産品・魚食推進を図っております。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

<p>地域の基幹産業である漁業を魅力あるものへと併せて持続性を高める産業とするため、「資源管理型漁業」や「つくり育てる漁業」を推進し以下の取組を強化します。</p> <p>○ほたて加工の取組</p> <p>既設の加工施設の狭隘解消と製造ラインをより衛生管理の徹底した施設への改善を目指し、原材料の増加を見込んだ製品の製造と輸出体制の構築の取組を行います。</p> <ul style="list-style-type: none">・乾貝柱工場の保管庫の建設と機械の設置。 <p>従業員の人出不足を補う最新鋭の選別機を含めた機械類の設置とより高度な衛生管理・品質管理・製造量の増大に対応できる保管庫の建設を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none">・玉冷工場の増築と製造ラインの見直し、原料庫（冷凍冷蔵施設）の併設。 <p>現在の対米HACCP対応工場からより高度な衛生管理の徹底を行い、併せて増築により対EU-HACCP対応工場を建設し更なる加工品の輸出体制の構築を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none">・衛生管理、品質管理の強化のため、従業員の研修会等の開催の実施。 <p>○定置漁業の取組</p> <p>安全操業体制と水産物の衛生管理の確立を図り、経営コストの削減と魚価向上による漁業経営の安定に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none">・安全操業と衛生管理を中心とした乗組員対象の研修会の実施。・荷揚げ作業の効率化と更なる鮮度保持対策のための製氷機の建設検討。・省燃油活動の継続実施によるコスト削減を図ります。 <p>○養殖作業の効率化への取組</p> <p>当地域ではホタテガイを採苗から育成・出荷までの養殖作業を既設の陸上作業場で行っているが、養殖規模の拡大により各経営体の作業場も狭隘となり、屋外へ畜養水槽を移動して行うなど天日や雨水を避けられない環境にあるため、作業効率の改善と労働力に軽減の取組を行います。</p> <ul style="list-style-type: none">・陸上作業場の作業効率の向上と衛生管理対応の作業施設の建設。

・更なる養殖作業効率化・労働力の軽減を目指し作業の機械化への検討。

○省燃油活動の取組

漁業経営セーフティネット構築事業を活用し省燃油活動プランを推進し、燃油費の削減と漁労コスト削減に引き続き以下のとおり取り組みます。

・船底、舵、プロペラ等を清掃し付着物防止による燃費改善。

・航行速度を平均で23ノットから21ノットに減速航行し燃費改善。

○関連施策の取組

・漁船の大型化による漁港利用方法の検討・物揚場の浚渫を含めた漁港整備の検討。

衛生管理型漁港への促進と今後の輸出を見据えて屋根付き岸壁及び衛生管理意識の向上を図ります。

漁船上架施設の建設検討と併せて漁港整備の検討。

・漁獲水産物の鮮度保持のため、製氷施設建設の検討。

上記の取組を通じて魚価向上と経営コスト削減による漁業所得の向上を図ります。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

○共同漁業権・区画漁業権行使規則に基づく操業隻数、期間等の規制遵守による資源負荷の抑制

○佐呂間漁業協同組合における資源管理計画に基づく自主的資源管理措置の実施による資源保護（北海道資源管理協議会）

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (平成31年度)

以降、以下の取組内容は、進捗状況や得られた成果等を踏まえ、必要に応じて見直しすること
します。

漁業収入向上の ための取組	<p>ホタテガイ漁業者 53 名とホタテガイ養殖漁業者 49 名はサロマ湖養殖許容量のもと、採苗から育成・出荷まで定められた枚数を養殖し、かつ漁協で定めた養殖資材 1 カゴ当たりの枚数を遵守して資源管理を徹底して育成します。</p> <p>ホタテガイ漁業者は資源管理のもと、大型の稚貝をオホーツク海に放流し、ヒトデなどの外敵駆除を実施し生残率・漁獲数量の増加を図り漁業収入の増加を目指します。</p> <p>ホタテガイ養殖漁業者は上記の資源管理の他にホタテガイ養殖許容量点検調査を行い更なる資源管理を実施すると共に、大型の稚貝を成貝に育成して出荷することで、生鮮での販売、漁協の加工施設での乾貝柱製造による輸出製品の増大と漁業収入の更なる増加を目指します。</p> <p>更なる輸出の増大に向けて乾貝柱工場の保管庫・選別機を含む製造能力向上と玉冷工場の増築による E U - H A C C P 対応工場への整備を検討していきます。</p> <p>定置漁業者 53 名は衛生管理・鮮度保持の徹底、殺菌海水の使用を進めることにより品質管理・魚価の安定・付加価値向上に取り組めます。</p> <p>漁協とホタテガイ漁業者・定置漁業者はサロマ湖漁港の航路整備の事業促進を国・北海道へ要請するとともに、富武士漁港の屋根付き岸壁・殺菌海水装置設備などの衛生管理型漁港への整備促進を要請していきます。</p> <p>全漁業者及び漁協と佐呂間町は、「サロマ大収穫祭」や北海道外の佐呂間町ゆかりの販売イベントに参加し、水産物の安心安全を P R することや地場産品の紹介・魚食推進を進めて水産物の販売拡大により漁業収入の向上を図ります。</p> <p>これらの取組により、基準年より 0.9%の所得向上を目指します。</p>
漁業コスト削減 のための取組	<p>全漁業者が省燃油活動を行い、以下に取り組めます。</p> <ul style="list-style-type: none">・船底、舵、プロペラなどの清掃と減速航行 (23 ノットから 21 ノット) による燃費改善による燃油コストの削減。 <p>養殖作業施設の整備の検討と作業効率の向上・作業の機械化を図り、労働時間の短縮を目指すことで経営経費の削減に努めます。</p> <p>これらの取組により、基準年より 0.2%の経費削減を目指します。</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業（国） ・水産基盤整備事業（国）・漁港機能増進事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁業近代化資金（国・道・町） ・漁業者保証円滑化対策事業（国）
-----------	---

2年目（平成32年度）

漁業収入向上のための取組	<p>ホタテガイ漁業者 52 名とホタテガイ養殖漁業者 49 名はサロマ湖養殖許容量のもと、採苗から育成・出荷まで定められた枚数を養殖し、かつ漁協で定めた養殖資材 1 カゴ当たりの枚数を遵守して資源管理を徹底して育成します。</p> <p>ホタテガイ漁業者は資源管理のもと、大型の稚貝をオホーツク海に放流し、ヒトデなどの外敵駆除を実施し生残率・漁獲数量の増加を図り漁業収入の増加を目指します。</p> <p>ホタテガイ養殖漁業者は上記の資源管理の他にホタテガイ養殖許容量点検調査を行い更なる資源管理を実施すると共に、大型の稚貝を成貝に育成して出荷することで、生鮮での販売、漁協の加工施設での乾貝柱製造による輸出製品の増大と漁業収入の更なる増加を目指します。</p> <p>更なる輸出の増大に向けて乾貝柱工場の保管庫・選別機を含む製造能力向上と玉冷工場の増築による E U - H A C C P 対応工場への整備を検討していきます。</p> <p>定置漁業者 52 名は衛生管理・鮮度保持の徹底、殺菌海水の使用を進めることにより品質管理・魚価の安定・付加価値向上に取り組みます</p> <p>漁協とホタテガイ漁業者・定置漁業者はサロマ湖漁港の航路整備の事業促進を国・北海道へ要請するとともに、富武士漁港の屋根付き岸壁・殺菌海水装置設備などの衛生管理型漁港への整備促進を要請していきます。</p> <p>全漁業者及び漁協と佐呂間町は、「サロマ大収穫祭」や北海道外の佐呂間町ゆかりの販売イベントに参加し、水産物の安心安全を P R することや地場産品の紹介・魚食推進を進めて水産物の販売拡大により漁業収入の向上を図ります。</p> <p>これらの取組により、基準年より 2.7%の所得向上を目指します。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者が省燃油活動を行い、以下を取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船底、舵、プロペラなどの清掃と減速航行（23 ノットから 21 ノット）による燃費改善による燃油コストの削減。 <p>養殖作業施設の整備の検討と作業効率の向上・作業の機械化を図り、労働時間の短縮を目指すことで経営経費の削減に努めます。</p> <p>これらの取組により、基準年より 0.3%の経費削減を目指します。</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業（国） ・水産基盤整備事業（国）・漁港機能増進事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁業近代化資金（国・道・町） ・漁業者保証円滑化対策事業（国）
-----------	---

3年目（平成33年度）

漁業収入向上のための取組	<p>ホタテガイ漁業者 52 名とホタテガイ養殖漁業者 49 名はサロマ湖養殖許容量のもと、採苗から育成・出荷まで定められた枚数を養殖し、かつ漁協で定めた養殖資材 1 カゴ当たりの枚数を遵守して資源管理を徹底して育成します。</p> <p>ホタテガイ漁業者は資源管理のもと、大型の稚貝をオホーツク海に放流し、ヒトデなどの外敵駆除を実施し生残率・漁獲数量の増加を図り漁業収入の増加を目指します。</p> <p>ホタテガイ養殖漁業者は上記の資源管理の他にホタテガイ養殖許容量点検調査を行い更なる資源管理を実施すると共に、大型の稚貝を成貝に育成して出荷することで、生鮮での販売、漁協の加工施設での乾貝柱製造による輸出製品の増大と漁業収入の更なる増加を目指します。</p> <p>更なる輸出の増大に向けて乾貝柱工場の保管庫・選別機を含む製造能力向上と玉冷工場の増築による E U - H A C C P 対応工場への整備を実施していきます。</p> <p>定置漁業者 52 名は衛生管理・鮮度保持の徹底、殺菌海水の使用を進めることにより品質管理・魚価の安定・付加価値向上に取り組みます。</p> <p>漁協とホタテガイ漁業者・定置漁業者はサロマ湖漁港の航路整備の事業促進を国・北海道へ要請するとともに、富武士漁港の屋根付き岸壁・殺菌海水装置設備などの衛生管理型漁港への整備促進を要請していきます。</p> <p>全漁業者及び漁協と佐呂間町は、「サロマ大収穫祭」や北海道外の佐呂間町ゆかりの販売イベントに参加し、水産物の安心安全を P R することや地場産品の紹介・魚食推進を進めて水産物の販売拡大により漁業収入の向上を図ります。</p> <p>これらの取組により、基準年より 4.2%の所得向上を目指します。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者が省燃油活動を行い、以下を取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船底、舵、プロペラなどの清掃と減速航行（23 ノットから 21 ノット）による燃費改善による燃油コストの削減。 <p>養殖作業施設の整備の実施と作業効率の向上・作業の機械化を図り、労働時間の短縮を目指すことで経営経費の削減を目指します。</p> <p>これらの取組により、基準年より 0.4%の経費削減を目指します。</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業（国） ・水産基盤整備事業（国）・漁港機能増進事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁業近代化資金（国・道・町） ・漁業者保証円滑化対策事業（国）
-----------	---

4年目（平成34年度）

漁業収入向上のための取組	<p>ホタテガイ漁業者 52 名とホタテガイ養殖漁業者 49 名はサロマ湖養殖許容量のもと、採苗から育成・出荷まで定められた枚数を養殖し、かつ漁協で定めた養殖資材 1 カゴ当たりの枚数を遵守して資源管理を徹底して育成します。</p> <p>ホタテガイ漁業者は資源管理のもと、大型の稚貝をオホーツク海に放流し、ヒトデなどの外敵駆除を実施し生残率・漁獲数量の増加を図り漁業収入の増加を目指します。</p> <p>ホタテガイ養殖漁業者は上記の資源管理の他にホタテガイ養殖許容量点検調査を行い更なる資源管理を実施すると共に、大型の稚貝を成貝に育成して出荷することで、生鮮での販売、漁協の加工施設での乾貝柱製造による輸出製品の増大と漁業収入の更なる増加を目指します。</p> <p>更なる輸出の増大に向けて乾貝柱工場の保管庫・選別機を含む製造能力向上と玉冷工場の増築による E U - H A C C P 対応工場への整備を実施していきます。</p> <p>定置漁業者 52 名は衛生管理・鮮度保持の徹底、殺菌海水の使用を進めることにより品質管理・魚価の安定・付加価値向上に取り組みます。</p> <p>漁協とホタテガイ漁業者・定置漁業者はサロマ湖漁港の航路整備の事業促進を国・北海道へ要請するとともに、富武士漁港の屋根付き岸壁・殺菌海水装置設備などの衛生管理型漁港への整備促進を要請していきます。</p> <p>全漁業者及び漁協と佐呂間町は、「サロマ大収穫祭」や北海道外の佐呂間町ゆかりの販売イベントに参加し、水産物の安心安全を P R することや地場産品の紹介・魚食推進を進めて水産物の販売拡大により漁業収入の向上を図ります。</p> <p>これらの取組により、基準年より 6.0%の所得向上を目指します。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者が省燃油活動を行い、以下を取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船底、舵、プロペラなどの清掃と減速航行（23 ノットから 21 ノット）による燃費改善による燃油コストの削減。 <p>養殖作業施設の整備の実施と作業効率の向上・作業の機械化を図り、労働時間の短縮を目指すことで経営経費の削減を目指します。</p> <p>これらの取組により、基準年より 0.5%の経費削減を目指します。</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業（国） ・水産基盤整備事業（国）・漁港機能増進事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁業近代化資金（国・道・町） ・漁業者保証円滑化対策事業（国）
-----------	---

5年目（平成35年度）

漁業収入向上のための取組	<p>ホタテガイ漁業者 52 名とホタテガイ養殖漁業者 49 名はサロマ湖養殖許容量のもと、採苗から育成・出荷まで定められた枚数を養殖し、かつ漁協で定めた養殖資材 1 カゴ当たりの枚数を遵守して資源管理を徹底して育成します。</p> <p>ホタテガイ漁業者は資源管理のもと、大型の稚貝をオホーツク海に放流し、ヒトデなどの外敵駆除を実施し生残率・漁獲数量の増加を図り漁業収入の増加を目指します。</p> <p>ホタテガイ養殖漁業者は上記の資源管理の他にホタテガイ養殖許容量点検調査を行い更なる資源管理を実施すると共に、大型の稚貝を成貝に育成して出荷することで、生鮮での販売、漁協の加工施設での乾貝柱製造による輸出製品の増大と漁業収入の更なる増加を目指します。</p> <p>更なる輸出の増大に向けて乾貝柱工場の保管庫・選別機を含む製造能力向上と玉冷工場の増築による E U - H A C C P 対応工場への整備を実施していきます。</p> <p>定置漁業者 52 名は衛生管理・鮮度保持の徹底、殺菌海水の使用を進めることにより品質管理・魚価の安定・付加価値向上に取り組みます。</p> <p>漁協とホタテガイ漁業者・定置漁業者はサロマ湖漁港の航路整備の事業促進を国・北海道へ要請するとともに、富武士漁港の屋根付き岸壁・殺菌海水装置設備などの衛生管理型漁港への整備促進を要請していきます。</p> <p>全漁業者及び漁協と佐呂間町は、「サロマ大収穫祭」や北海道外の佐呂間町ゆかりの販売イベントに参加し、水産物の安心安全を P R することや地場産品の紹介・魚食推進を進めて水産物の販売拡大により漁業収入の向上を図ります。</p> <p>これらの取組により、基準年より 8.5%の所得向上を目指します。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者が省燃油活動を行い、以下を取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船底、舵、プロペラなどの清掃と減速航行（23 ノットから 21 ノット）による燃費改善による燃油コストの削減。 <p>養殖作業施設の整備の実施と作業効率の向上・作業の機械化を図り、労働時間の短縮を目指すことで経営経費の削減を目指します。</p> <p>これらの取組により、基準年より 0.6%の経費削減を目指します。</p>

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業強化支援事業（国） ・水産基盤整備事業（国）・漁港機能増進事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国） ・漁業近代化資金（国・道・町） ・漁業者保証円滑化対策事業（国）
-----------	---

(5) 関係機関との連携

漁協・佐呂間町を含めた地域再生委員会を中心にオブザーバーであるオホーツク総合振興局、北海道漁業協同組合連合会を始め、漁協内部の各漁業部会や漁業系統団体、試験研究機関に支援、協力を得ながらプラン達成を目指していきます。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成20年から29年（10年平均） ：漁業所得
	目標年	平成35年度：漁業所得

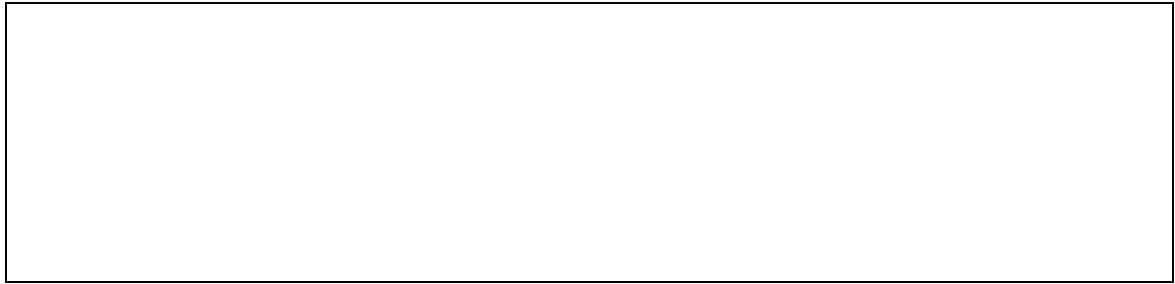
(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

ホタテガイ養殖水揚数量	基準年	平成29年度：
	目標年	平成35年度：

(4) 上記の算出方法及びその妥当性



5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化支援事業	<ul style="list-style-type: none">・ 玉冷工場の増築により製品製造増大やEU向け出荷と衛生管理設備の徹底を目指し、製品流通の拡大を図ります。・ 乾貝柱保管庫の建設により更なる製品製造の増大と衛生管理の徹底した製品の輸出増大を図ります。・ 養殖作業の効率化と衛生管理の徹底した養殖作業施設の建設を行い、安心安全な水産物の養殖を行い所得増大を目指します。・ 漁獲水産物の鮮度保持のため製氷施設の建設を目指します。
水産基盤整備事業	<ul style="list-style-type: none">・ サロマ湖漁港の航路整備による漁船積載量の緩和と出漁機会の増大を目指します。・ 輸出増大に向けて屋根付き岸壁の整備などの衛生管理型漁港を目指すとともに漁港施設の保全・回復を含めた効率的な利用を目指します。
漁業経営セーフティネット構築事業	<ul style="list-style-type: none">・ 燃油高騰などの経済的環境の影響を緩和し、漁業経営の安定化を図ります。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	<ul style="list-style-type: none">・ 全漁業者は生産性の向上や省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入により漁業経営コストの削減を目指します。
漁港機能増進事業	<ul style="list-style-type: none">・ 輸出増大や衛生管理の徹底を目指し、屋根付き岸壁・殺菌海水装置等の設置を行い魚価の安定・向上を目指します。
漁業近代化資金	<ul style="list-style-type: none">・ 漁船建造や機関換装等の省エネ機器の導入により漁業経営コストの削減を目指します。
漁業者保証円滑化対策事業	<ul style="list-style-type: none">・ 漁業近代化資金の借りに伴う漁業者の負担軽減を図ります。

未定	<ul style="list-style-type: none">・加工場従業員の人出不足を補う最新鋭の選別機を含めた機械類の設置により輸出向け製品の増大を図ります。・漁船の大型化に伴う物揚げ岸壁の浚渫を含めた整備と漁船上架施設の設置及び漁港利用の効率的な利用を図ります。